



令和5年 2月 第10号
西方中学校 図書室



寒さがまた一段と増す時期となりました。2月といえば『節分』ですが、みなさんは『猫の日』をご存知ですか？「猫と一緒に暮らせる幸せに感謝し、猫とともにこの喜びをかみしめる記念日」という趣旨で1987年に制定され、2月22日（にゃんにゃんにゃん）は猫の日と定められているそうです。この機会に図書室にある猫に関する本を読んで、猫に癒やされたり、生態について学んだりするのもいいですね。

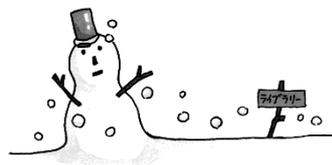
今年度の最終貸し出し日

3年生の最終貸出日
2/15 (水) < 返却日 2/22 (水) >

1、2年生の最終貸出日
3/10 (金) < 返却日 3/17 (金) >

借りている本は全て返却してください。
最終貸出日後も、本の返却、閲覧、
学習での利用はできます。

※春休みの貸し出しはありません。



今年度 最後 の移動図書館は、3月1日です

今年度最後の移動図書館は3月1日（水）となります。

この日は3年生も本を借りることはできますが、卒業式までに借りた本を返却できなかった場合、市の図書館に直接本を返してください。

1、2年生は3月14日（火）までに図書室の返却ボックスへ本を入れてください。

次回の移動図書館は **2月15日（水）** に来校します。

※今後の状況においては、来校日の変更等を行う場合があります。

2月22日（猫の日）オススメの本

旅猫レポート
有川 浩／著
講談社



この絆は、恋愛を超える。カギしっぽのナナと心優しい青年サトルの、最後の旅の物語。野良猫のナナは、瀕死の自分を助けてくれたサトルと暮らし始めた。それから五年が経ち、ある事情からサトルはナナを手離すことに。『僕の猫をもらってくれませんか？』一人と一匹は銀色のワゴンで”最後の旅”に出る。懐かしい人々や美しい風景に出会ううちに明かされる、サトルの秘密とは。永遠の絆を描くロードノベル。

先生と僕
坂木 司／著
双葉社



都会の猫は推理好き。田舎のネズミは……？ ひよんなことから大学の推理小説研究会に入ったかわりな「僕」は、これまたひよんなことからミステリ大好きの中中学生「先生」と知り合う。そんな2人が、身のまわりにあるいろいろな「？」を解決すると同時に、古今東西のミステリ作品を紹介していく連作短編集。事件の真相に迫る名探偵は、あなたをミステリの世界に導く名案内人。巻末には仕掛けに満ちた素敵な「特別便」も収録。

うら面もあります →

PICK UP 3 TITLES

誰もがハマる(!?)「いまよむ本」、今月の記念日にちなんだ「今月の本」、ぜひ読んでほしい「外国の本」「日本文学」…… 毎月3つのタイトルで魅力的な本を紹介します。



海獣学者、クジラを解剖する。～海の哺乳類の死体が教えてくれること～
田島 木綿子／著
山と溪谷社



大人も読みたい ことも歳時記
季語と歳時記の会
小学館



カモメに飛ぶことを教えた猫
ルイス・セプルベダ
白水社



「田島さん、クジラが打ち上がったよ」電話1本で海岸へ出動！解剖は体力&スピード勝負。クジラを載せたクレーン車がパンク、帰りの温泉施設で異臭騒ぎ、巨大な骨格標本ができるまで——。大阪の淀川河口付近で発見され、1月13日に死んでいることが確認された“迷いクジラ”の学術調査を行った、国立科学博物館研究主幹「田島木綿子」氏がつづる科学エッセイ。

2022年2月19日は二十四節気の雨水(うすい)です。降る雪が雨に変わり、雪解けが始まる時期。「雨水に雛人形を飾り始めると良縁に恵まれる」という言い伝えから、雛人形を飾るのにおすすめの日です。

日本初の“本格的”子どものカラー歳時記です。タイトルの「大人も読みたい」は、ただのうたい文句ではなく、大人にもぜひ読んでいただきたい、読み応えある本格的な内容となっています。

銀色のつばさのカモメ、ケンガーは、ハンブルクのとあるバルコニーに墜落する。そこには1匹の黒い猫がいた。名前はゾルバ。瀕死のカモメは、これから産み落とす卵をこの猫に託す。そして、3つの厳粛な誓いをゾルバに立てさせるのだった……。猫のゾルバが誓った三つの約束、でもその約束をまもるには、大いなる知恵とまわりのみんなの協力が必要だった。ヨーロッパで大ベストセラーとなった愛と感動の物語。



「目でみる数字」

岡部敬史／著 山出高士／写真
(東京書籍 刊)

123

世の中の興味深い数字をビジュアル展開する写真集。『目でみる』シリーズの最新刊！

日常生活において、出会う無数の「数字」。その数字を改めて調べて、実際に写真に撮ってみると意外な姿が現われる。それを雑学とともに紹介し、楽しむ。数字はあまねく存在しており、数字を切り口にする则様々な分野の興味深い雑学をビジュアルで見せることができる。本書を読んだ後、日常風景がこれまでとは別様に見えるようになる。本書はそんな写真集である。

「k.m.p.の、旅したくてぐるぐる。」

k.m.p.／著
(東京書籍 刊)

こんな時間も悪くない、と、思える時間にしたい。私たちは今、こんなふうに過ごしています。

旅の達人「k.m.p.」が旅行に行きたくても行けない、旅したい人たちのぐるぐるした気持ちを解消する楽しくて新しい旅の形を提案！これまでの旅を語り合う「過去の旅」おうちの中や近場で旅をする「今の旅」いつか行く旅を妄想してあそぶ「これからの旅」のアイデアを、豊富な写真とイラストとともに紹介。また自由に世界を旅できるその日まで、日々に旅気分を取り入れて過ごすヒントがたっぷり！

「古代メソポタミア飯〈ギルガメッシュ叙事詩と最古のレシピ〉」

遠藤雅司／著

(大和書房 刊)

本書では、古代メソポタミアの粘土書板に記されたレシピや食の記述を翻訳し、当時食べられていた料理を推測して、現代の家庭用に再現&アレンジしました。同時に、古代メソポタミアから伝わる最古の文学『ギルガメッシュ叙事詩』を読みとき、その食の記述から、さらに当時の食、古代メソポタミアのリアルに迫っています。叙事詩の登場人物である古代王ギルガメッシュとエンキドゥは何を食べていたのかに想いを馳せつつ、物語と古代の世界にどっぷり浸れる歴史エッセイ&レシピ本です。

【 そのほかの新着図書 】

- ・世界の神話
- ・メソポタミアの神話
- ・中学生の知識で数学脳を鍛える
- ・いちばん親切な西洋美術史
- ・ものがたりの家
- ・日本語を味わう名詩入門9～20
- ・ティアムーン帝国物語6、7
- ・京都伏見のあやかし甘味帖3～5
- ・薬屋のひとりごと12
- ・シェーマ

【 寄贈いただいた本 】

- ・年金のひみつ
- ・ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー
- ・大いなるふるさと関東平野をつづる
- ・国府義胤

「幽霊人命救助隊」

高野 和明／著

(文藝春秋 刊)



浮かべられない4人の霊に、49日以内に自殺しようとする100人を救えとの神の命令が下る！

浪人生の高岡裕一は、奇妙な断崖(だんがい)の上で3人の男女に出会った。老ヤクザ、気弱な中年男、アンニュイな若い女。そこへ神が現れ、天国行きの条件に、自殺志願者100人の命を救えと命令する。裕一たちはなんと、自殺した幽霊だったのだ。地上に戻った彼らが繰り広げる怒涛の救助作戦。笑いあり涙あり、怒涛の救助大作戦始動！

